

—水戸市—

スポーツコンベンションの拠点「東町運動公園体育館」について

1. はじめに

水戸市では、市役所新庁舎、新ごみ処理施設、新市民会館及び東町運動公園体育館の4大プロジェクトを推進している。本稿では、市制施行130周年記念施設であり、新たな交流やにぎわいの創出につながるスポーツコンベンションの拠点となる「東町運動公園体育館」の整備事業について紹介する。

2. 整備事業の経緯

東町運動公園は、1957（昭和32）年に県整備の運動公園として開設され、以来、多くの市民に親しまれてきたが、老朽化が激しく、その解消が課題となっていた。

同公園は、本市の中心市街地に隣接し、優れた立地条件を備えている。本市では、建替え整備を進めることによって、日本三名園のひとつ偕楽園や県立歴史館、中心市街地への回遊性の向上によるにぎわいの創出や周辺地域への経済波及効果が期待できること、国や県の支援により本市の財政負担の軽減が図られることなどを総合的に判断し、市有施設として新たな体育館の整備に取り組む決断をした。

3. 整備事業の概要

1) 体育館の整備コンセプト

市民がスポーツや健康づくりに親しむことができる市民スポーツの拠点として、また、プロスポーツや全国規模のスポーツ大会等を誘致可能な、スポーツコンベンションの拠点となり得る多機能型のアリーナを有する施設とした。さらに、多くの方が集まる大規模な会議や様々な展示会等、多目的に利用可能な施設にするとともに、防災拠点としても活用できる施設とした。

2) 体育館の概要

(1) メインアリーナ

- ・床面積：3,255㎡
- ・有効高さ：14.0m
- ・観客席：3,938席
- ・収容人員：5,000人

(2) サブアリーナ

- ・床面積：997㎡
- ・有効高さ：12.5m
- ・観客席：198席

(3) その他の施設

- ・レスリング場
- ・フェンシング場
- ・ボクシング場
- ・トレーニング室
- ・防災備蓄倉庫 他



北側からの外観

4. 事業課題と事業手法の工夫

東町運動公園体育館は、2019年9月開催の「いきいき茨城ゆめ国体」の会場となることから、事業費の削減を図りながら、事業を円滑に、かつ確実に推進する必要があった。そのため、国のモデル事業として支援を得ながら、設計段階から施工予定者が関与するECI方式を採用するとともに、CM方式を導入した。その結果、品質を下げずにコストを低減させるVE提案をはじめ、工期の短縮、専門的な工法、安全性の確保など、施工予定者からの様々な提案により、事業費を抑制することが可能となり、確実な予算管理を行うことができた。また、当初の想定より早く工事が完成し、国体に向けて十分な準備期間を確保することができた。

5. ネーミングライツの導入

民間活力を活用した効果的で持続可能な施設運営を図るため、ネーミングライツを導入した。

- ・スポンサー：株式会社アダストリア
- ・呼称名：アダストリア みと アリーナ

6. おわりに

東町運動公園体育館は、国、県の支援のもと、着実に事業の推進を図ることができた。そして、県内最大級のアリーナとして、2019年4月から供用開始の運びとなった。将来にわたって、広く市民にご利用いただき、愛され親しまれる施設となるよう、適切な管理、運営を行うとともに、スポーツ文化の振興に向けて、東町運動公園体育館ならではの様々な事業を積極的に展開していく所存である。

(水戸市 建設部 建築課 技監兼建築課長 小林 幸夫)
(水戸市 市民協働部 体育施設整備課長 太田 達彦)